第2回別海町自治推進委員会 概要

開催日時：令和6年3月6日（水）午前10時00分から午前11時30分まで

開催場所：別海町役場 2階 201会議室

出席委員：麻郷地聡、佐藤栄子、大森和男、高橋智美、大橋正汰、武田隆、平澤珠美、

今井加奈

（欠席委員 吉野朋博、菅野笑子）

<会議次第>

1 開会

2 辞令交付

3 議事

議題1 令和4年度提出意見書に対する取組状況について

（1）行政情報の発信について

（2）意見集約の方法について

（3）まちづくり補助金制度の見直しについて

（4）その他の協議テーマについて

4 その他

5 閉会

1 開会

2 辞令交付

町長から麻郷地委員へ辞令交付

3 議事

議題1 令和4年度提出意見書に対する取組状況について

（1）行政情報の発信について

（2）意見集約の方法について

（3）まちづくり補助金制度の見直しについて

資料1及び資料1別紙を用い、意見書に対する行政の取組状況を説明。

また、まちづくり補助金制度の見直しに伴い、これまで補助金評価委員会が担ってきた実施事業に対する助言等について、自治推進委員会にお願いしたい。

意見・質問

○委員

- ・行政情報の発信に関しては、ずっと求めてきたゴミの分別について対応いただき、便利に使わせてもらっている。 ※チャット機能を説明
- ・意見の集約に関しては、情報提供に注力することによって納得できる。先日、教育委員会が秋田県大館市への教育視察報告会を町民も参加できる形で実施したことも素晴らしい

と思う。

- ・補助金の見直しは令和6年度から予定しているのか。

→事務局

- ・本件について御了承いただければ、取扱要領を改正の上、令和6年度から実施したいと考えている。意見の徴取方法としては、今年度と同様に毎年度第1回の本委員会の中で議事として取り上げ、その場で意見をいただく形とし、委員の負担が大きくならないようにしたい。

○委員

- ・手厚い改正内容となっており、利用している身として非常にありがたい。
- ・繰越金について、2年目だけではなく、3年目以降も補助対象となるのか。

→事務局

- ・補助対象となる。

○委員

- ・地域リーダー協働型補助金はどのような事業を想定しているのか。

→事務局

- ・昨年度いただいた意見の中では、中間組織の強化として地域のリーダーの存在が必要であった。新たにチャレンジする方、それらの模範となる方で分けた場合に、模範となる事業に対して活用いただく想定をしている。また、例えば、3年間実施した後、事業をバージョンアップして実施する際に活用いただく等も想定される。まちづくりを牽引していく団体に活用いただきたいと考えている。

○副委員長

- ・1点念押しだが、まちづくり補助金に対する助言等は、自治推進委員会の役割を逸脱していないか

→事務局

- ・自治基本条例に自治推進委員会が規定されている。条例には「情報共有の原則」と「住民参加と協働の原則」の2つの原則が規定されており、住民参加の活動に対してご意見をいただくということは、委員会の活動趣旨に沿っていると考えている。細かい経費に関しては、町長と町職員にらせていただいて、制度の拡充や改正に関して、ご意見がいただければと考えている。

<承認>

議題1 令和4年度提出意見書に対する取組状況について

(4) その他の協議テーマについて

資料2を用い、意見書化されていない協議テーマに関する取組状況について報告。

○事務局

1 中間組織の強化

- ・具体的な意見書の提出まで至っていない事項。
- ・「町内会に考えてもらう」と記載のある部分に対し、現在2ヶ年をかけて総合計画の見直

し作業をしている。その中で各部署が関連団体へのヒアリング調査を行っており、総合政策課として今年度、中央地区、尾岱沼地区、西春別駅前地区の連合町内会に、聞取りさせていただいた。

- ・連町だけだが、町内会活動の課題や困りごと等を聞いてきた。
- ・「外部の人間を入れてまちづくりを考えると新たな視点が出てくる」と記載のある部分に、関しては、当日配布資料（地域おこし協力隊一覧）のとおり 19 名の地域おこし協力隊が着任している。
- ・「地域再生活動」として、町内会等の地域活動を中間支援する役割の地域おこし協力隊を募集したが、現時点で内定には至っていない状況で今後も継続して募集をしていく。ただし、着任からこれまでの活動を見て、中間支援に協力できそうな隊員もいるので、今後、地域に紹介をしていきたいと考えている。
- ・小・中学校の閉校が決まった中西別地区では、利活用方法を検討する中西別未来会議が立ち上がり、それに対しても協力隊の力が求められていたりもする。
- ・ボランティアサークル サンキューの会が主催したアイデア会議にも、前は 9 名参加している。

2 若者の育成

- ・コロナ禍でイベントが減少。改正するまちづくり補助金の活用でまちづくりを推進してほしい。
- ・ふれあいトーク宅配講座においては、「移住者目線で見た別海町の魅力」とメニューで地域おこし協力隊が対応しているほか、団体の活動に参加してお話を伺っている例もある。

3 行政情報の発信方法

- ・世代ギャップに対応できるよう、情報化推進室という専門部署で取り組んでいる。
- ・議会提出予定の翌年度予算では、保育園での保護者との情報共有でデジタルを活用したり、書かない窓口の導入等を予定している。
- ・広報における二次元バーコードの活用も推進していく。
- ・LINE はまだ始めたばかりなので、今後よりよいサービスとなるよう検討を進める。
- ・若い世代に伝えるための工夫としては、べつかい移住ちゃんねるや、親近感を高めるため試験的に敬語を使わない発信を行い、結果としてフォロワー数を大きく伸ばしている（現時点で Instagram 5.5 万人、X（旧 Twitter） 5.3 万人等）ふるさと納税アカウント等の取組も行っている。

4 意見集約の方法

- ・先ほども説明したとおり、まずは町が持つ情報をしっかりと共有したいと考えている。
- ・匿名での意見募集に関しては、匿名だからこその危うさがあるため、一定のガイドラインが必要と考えている。
- ・若い世代から意見を拾う工夫として、デジタル地域通貨が普及された場合、ポイ活（※）の導入も考えられる。

5 議会オンライン傍聴・地域懇談会の実施

- ・議会活性化計画でオンライン配信を計画している。
- ・12月定例会は機材等の事情により上手くいかなかったが、3月定例会は配信予定。

意見・質問

○委員

- ・子ども子育て支援について、奨学資金制度の見直し等、高校、大学の一番大変な時期の支援を検討してほしい。

○委員

- ・大分県豊後高田市の子育て支援制度が充実している。日々、僻地の教育格差を感じているので、もう少し、僻地にも支援をしてほしい。
- ・学校の統廃合により、バスの乗車時間が1時間を超える場合、送り迎えを求められること、思春期の子どものケアに関して検討してほしい。

○委員

- ・キッズクラブで対応する大人が足りない。現状は70歳代の方が多く、交代人員がいない。
- ・町内会に関しても、長年、同じ体制、同じ人で運営しており、新しい人が入ってこない、中間層がいないという課題を持っている。

○委員

- ・地域おこし協力隊は翌年度以降も増えるのか。

→事務局

- ・4月以降6名が着任予定。

→副委員長

- ・若い世代であれば協力隊の現状を把握できると思うが、インターネットが苦手な人に向けた情報発信、共有をお願いしたい。広報に一覧を載せるなど検討してほしい。

○委員

- ・以前は別青協で、漁師と農家の交流があった。経営の悩みを聞いたりしてお互い勉強をしているんだなと感心した。
- ・昔は大勢集まって遊んでいたが、今は一人でも遊べるようになった。
- ・若年層に町内会活動が理解されない。

○委員

- ・4月から町内会の班長をやる予定だが、若い人が町内会に入るメリットを感じられない現状がある。むしろ、役を与えられてデメリットしか感じないから入らないのではないか。
- ・都市部での町内会加入率の低下が報道されていたが、どのように活気づけていくのか興味がある。
- ・町内会加入によるメリットを出していかなければ変わらないのではないか。

→副委員長

- ・疑問に思うことは理解できる。
- ・町内会活動だけでは、メリットを生み出すことは難しいが、何か取り組みたいことが出てきた際に、話を通すのに町内会を活用することができる。

○委員

- ・コロナ禍前は町内会行事を実施しており、それなりに準備等もあったので、それを負担に感じて、役をやりがらない傾向にあった。
- ・町内会行事がコロナ禍で減ったため、お年寄りと子どもたちの交流が減っている。
- ・地域からは、小中学生、父母と、お年寄りの交流会をやってみてはどうかとの声が出ている。

○委員

- ・子育て世代のネックは託児。
- ・何か活動したいと思った時に、子どもたちを連れていけないため、ためらったり諦めたりしてしまう。
- ・何か企画する場合、子連れも可能等となっていれば活性化するかもしれない。

○委員

- ・それぞれの世代が角度を変えて見ることで、子育て世代には何ができるか、介護の世界を若者がどう思うか等を議論して行政に課題をぶつけることが必要と思う。

4 その他

資料3を用い、総合計画の見直しに係る団体ヒアリングについて、自治推進委員会は委員個別に意見をいただきたい旨説明し、3月11日（月）までの提出依頼をした。

5 閉 会